

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 24-006

PDCA	事務事業名	半田運河周辺整備事業	部課等名	建設部都市計画課 都市計画担当	担当	林		
					内線等	446		
P 総合計画との関係性等	政策体系	章：第4章 安全で快適に住み続けられるまち						
		節：第3節 うるおい空間の形成						
		基本施策：2. 景観形成						
		単位施策：(2) 景観形成重点地区の整備						
	根拠法令等	個別施策：①景観整備の推進						
	対象・目的	半田運河を訪れる市民や観光客がイベントやまち歩きを楽しんでいただけるよう、周辺の景観形成を推進する。						
	目的を達成するための手段・活動内容	半田運河周辺において、社会資本整備総合交付金を活用し、景観に配慮した街路灯や運河周辺の回遊性向上を目的とした人道橋の整備を行う。						
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績		29年度	30年度	R1年度	単位	
		①道路高質化延長		480	-	-	m	
		②街路灯の設置数		-	-	3	基	
		事業費		92,410	-	6,620	千円	
		人件費		6,980	-	4,347	千円	
		総事業費		99,390	-	10,967	千円	
		活動単位当たりのコスト		29年度	30年度	R1年度	単位	
	①道路高質化1mあたりのコスト		207	-	-	千円		
	②街路灯1基あたりのコスト		-	-	3,656	千円		
	成 果	成果指標		29年度	30年度	R1年度	単位	
		①道路高質化延長	実績値	480	-	-	m	
			目標値	478	-	-		
		②街路灯の設置数	実績値	-	-	3	基	
目標値			-	-	3			
		実績値						
		目標値						
C 課題の整理	観点別評価	必要性		有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない	
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ない			
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—	
	事業の評価・課題	B						
		半田運河周辺を市民の憩いの場及びおもてなしの場とするため、周辺の景観に配慮した街路灯を整備し、夜間の視認性の向上を図ることができた。						
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進						
		更なる賑わいの創出のため、景観に配慮した人道橋を設置し、回遊性向上を図る。						
	令和2年度の目標	成果指標				目標値	単位	
		①橋梁（人道橋）整備事業の進捗率			目標値	25	%	
					目標値			
			目標値					